

犬養毅と青山霊園

日達 良文

犬養毅の墓がある青山霊園に幾度か行った。木堂墓の隣は入江家で侍従長相政の父為守の墓がある。単なる隣でなく木堂とは暮敵として交流があった。入江相政が書いている。

木堂は中国文化をしつかりと身につけた最後の政治家であり幼時から漢籍の素読をし硯を愛し、墨を重んじ紙を喜び漢詩を能くした。(中略)中国に対する骨髄からの敬愛は容易に類を見ないものである。

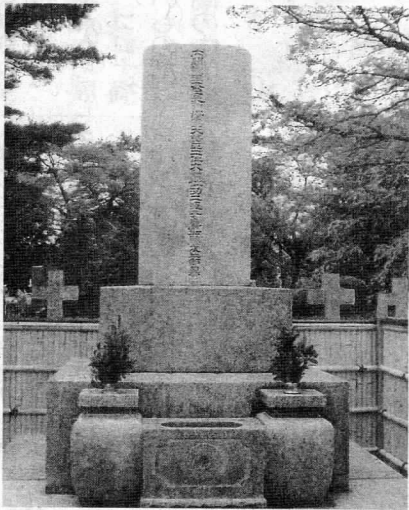
亡父為守は木堂の9才年少だが交流は長くこまやかなものがあつた。「きつと犬養さんと毎日碁が続くでしょうね」と墓参の時に母と話した。(墨昭57・3月号)

霊園には蔵相井上準之助の墓もあり5・15事件3カ月前の2月9日血盟団の小沼正に撃たれ死去、62歳だった。彼等は翌3月5日には三井合名会社理事長団琢磨を玄関で血盟団の菱沼五郎が射殺、のち右翼運動から離れ小幡五朗として県議8期県議会議長も務めた。

霊園には首相の墓も。加藤友三郎、浜口雄幸、吉田茂の墓があり明るい色の墓だった



吉田茂の墓



加藤友三郎の墓



浜口雄幸の墓

が2年後訪れると墓はなくなっていた。生地主佐へ移されたのであろう。没後の大磯邸では大勲位の勲章が盗難に遭い漏電により全焼した。寄附を募り再建されたが最早数寄屋造りの名建築家吉田五十八と衝突し